

# 地域総合医療センター通信 10月号

## ～地域医療実習を終えて～



中津川市地域総合医療センター 高橋春光

皆様にご協力いただきまして、去る5、7月に名古屋大学医学部6年生2名が、当センターで地域医療実習を行い無事終了いたしました。実習にご協力いただきました皆様はもちろんですが、ご協力いただきました患者様、利用者の皆様ここに改めて当センターよりお礼申し上げます。ありがとうございました。学生より皆様へのお礼と共にメッセージを預かっておりますので、ここにお知らせさせていただきます。

- ① 2週間中津川で実習させていただき、通常の医学部でのカリキュラムでは勉強することがあまりない内容を学ぶことができ、本当に貴重な経験だったと思っています。医師は、その職種上どうしてもチーム医療のリーダー役を任されることが多いです。そのため、パラメディカルが何をどのようにして医療とかかわっているのか、その実態や制度、仕組みを知ることは大切なことだと以前から思っていたのですが、実際に実習生としていろいろと教えていただくことによって、より強くそのことを実感しました。また、地域の方といろいろとお話しさせていただく中で、患者の立場ではどのような医師が求められているのかを直接伺うことができ、今後の自分のあり方について考えていく良い機会になりました。お世話になりました先生をはじめ、市民病院スタッフの方々、川上診療所、飛翔の里、坂下、川上デイサービス、健康福祉部のスタッフ、そして実習に協力して下さった地域の皆様に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。
- ② 2週間という短い期間でしたが、この中津川で地域医療実習をさせていただきました。診療所、中津川市の健康福祉部、デイサービス、障害者支援施設など、様々な場所での実習を通じ、大学病院では体験することができない地域医療の現場を生身で体験することができ、自身でも大きな経験になったと思います。特に行政を通じた診療所、市役所、地域施設とのつながりは、地域医療を知る上での大きな要素だと知ることができました。また高齢化が進む地域での、健康増進や疾患の予防の大切さも学ぶことができました。同時に、自分の経験や知識の少なさに改めて気付かされ、これから一層勉学に励む必要を痛感いたしました。最後になりますが、お世話になりました医師の先生方、看護師の方々、福祉施設の職員の方々、健康福祉部の方々にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

現在、医学教育の場は、病院より診療所、地域へ移っています。それは診療所、地域でしか学べないものがあるからです。医学教育を担うのは医師だけではなく、学生や研修医などの学習者に関わる皆様が、学習者を育てます。今後も当センターで地域医療実習、研修を行う予定です。改めて皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。